

今後のETJPの活動について

2007年9月26日

第10回ETJP全体ミーティング

ETJP事務局

1. 会員からETJPへの期待
(会員インタビューの振り返り)
2. 前回(2007年5月21日)のご提案内容と
その進捗状況
3. ETJP設置期間延長に関するご提案

会員からETJPへの期待

～会員インタビュー(2006年11月～12月実施)の振り返り～

- ENUM関連情報交換の場
- ENUM技術に関する積極的な広報
- サービス創出に向けたブレインストーミングと情報交換の場
- 面白い実験相手とのコーディネート
- 他団体との連携 (ex: VoIP/SIP TF)

前回(2007年5月21日)の ご提案内容とその進捗状況

- ENUM関連情報交換の場
- サービス創出に向けたブレインストーミングと情報交換の場

– 理由

- いくつかの会員からそのような場の設定の需要がある。
- 活動を活性化させるための有益な場になる可能性がある。
- そのような場の開催自体がETJPの活動の成果となる。
- ディスカッションを通じて面白い実験相手が見つかる可能性がある。

⇒ BoF開催提案が2件(IMS-SIPとの連携、IPv4アドレス枯渇対応とIPv6アドレス対応)事務局に寄せられました。これらにつき提案いただいた方等の意見をさらにお聞きしましたが、ETJPのBoFとして適切な形での具体化には至りませんでした。IMS-SIPとの連携については、本日の情報提供として採用させていただきました。

- ENUM関連情報交換の場
- ENUM技術に関する積極的な広報
- 面白い実験相手とのコーディネート
- 他団体との連携(ex: VoIP/SIP TF)
 - 理由
 - ENUM情報交換の場としては有効。
 - 機が熟したとき、すぐに動きだせるようにスタンバイしておく。
 - 国際相互接続実験が始まる際、総務省や諸外国等からのコンタクト先となる。
 - VoIP/SIP TF等他団体との連携を図ることで、随時の情報共有を可能にし、今後の急な状況変化にも備える。

⇒前回(5/21)の全体ミーティングでは、特に反対意見はなく、提案に沿った形で活動を進めていくこととなりました。

- 節目の報告書公開により広く情報提供
 - 理由
 - ENUMに関し広く情報提供することはETJPの活動のひとつ
 - 2005年10月～2007年9月の下記活動は広報に値する
 - 日本ENUMトライアルへの参加
 - SIPit18への参加
 - 会員による国際連携の開始
- ⇒2007年中を目処に公開できるよう、事務局にて報告書作成を進めます。



ETJP設置期間延長に関するご提案

- ETJPの存続が支持されている状況に鑑み、会則15条に基づき、次の通り提案します。
 - 本会の設置期間を、本会の目的が達成されたと判断できる時まで延長すること
 - 今後はMLを中心とした会員間の情報交換活動を行うこと
 - 本会の終了については、事務局で相談の上、終了の是非を会員宛にML上で伺い、会長、副会長が判断すること

- 今後の活動内容
 - MLにおいて会員間でBoFの開催が合意されたときはBoFを開く
 - 事務局や役員が必要と判断した場合は全体ミーティングを開く
 - 定期的(半年～1年に1回程度)に事務局が各会員コンタクトの更新確認をする
 - MLやWebページ等を通じて情報共有を図る
 - 活動の成果が出た場合は、報告書等を公開する

